

ルンビニ訪問

阿部 和美

釈尊の生誕地ルンビニは、ネパール南部のタライ平原西方に位置している。釈尊が生まれてすぐに立ち上がって7歩進み、「天上天下唯我独尊」と語ったと言う話の舞台だ。活動が終わってから一日だけ時間があつたので、慌しい旅となったがルンビニを訪問した。

ルンビニへは、カトマンズ空港から国内線で約40分、空港からタクシーで約30分ほどかかる。朝9時頃のフライトだったが、乗客は20人乗りの小型飛行機に5人ほど。観光客の姿はなかった。出発が遅れ、空港に着いたのは11時頃。そこからは、ネパール人の知人が紹介してくれた学生に案内してもらった。

タライ平原の暑さは活動中に東方のジャナクプールを経由したので覚悟していたが、ルンビニまでの道には街路樹も多く、緑が豊富で少し涼しかった。ル



ンビニは15世紀頃からイスラム勢力によって廃墟と化したのが、現在は丹下健三のマスタープランに従って観光都市として整備されつつある。周囲は木々で覆われていて、入り口の門からオフィスまでは15分ほどかかる。

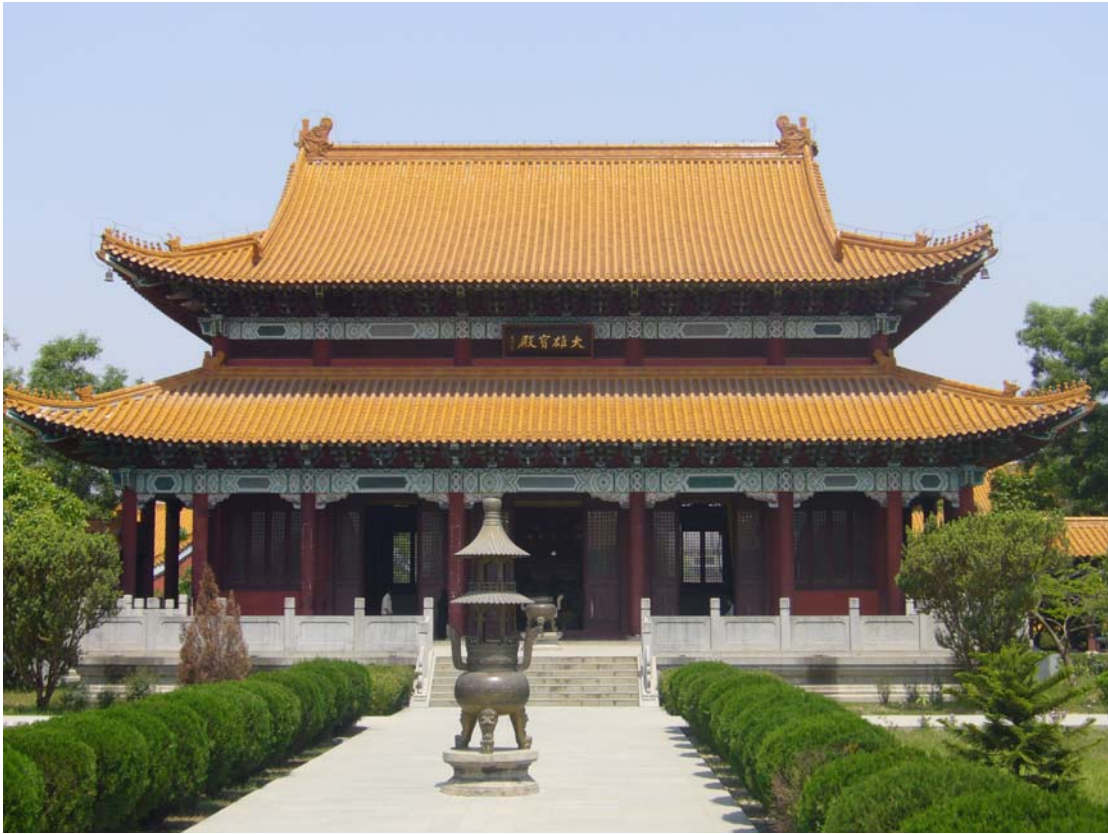
正面には聖園地区が広がっている。小さな池があり、その池は釈尊の産湯にも使われたという。池の近くには大きな菩提樹があり、その向かいには紀元前3~7世紀の聖堂の遺構が保存され、釈尊生誕の場所を示すマークストーンがあ

る。



園内には各国の寺院が立ち並んでいる。





(2 ページ下 : ドイツ寺、3 ページ上 : 中国寺、下 : 韓国寺)





(ミャンマー寺)

ルンビニは観光地として整備が進められているが、静かで穏やかなところだった。1週間ほど滞在して、園内をゆっくり散策したり、ルンビニ付近で仏陀の足跡をたどったりすると、仏陀についてもより理解を深められるだろう。今回はルンビニ滞在が正味 3 時間だったので、ただ見てまわるだけで終わってしまった。ぜひ再び訪れて、巡礼者とも言葉を交わし、現在のネパールで仏教がどう生きているのか感じたいと思う。